

平成26年2月27日

報道関係者 各位

平成26年 島原半島文化賞受賞者の決定について

標記のことについて、2月26日の審査会の結果、下記のとおり決定いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成26年受賞者（個人の部 2名）

松尾 司郎（まつお しろう） <雲仙市>

山口 和江（やまぐち かずえ） <島原市>

2. 授賞式

日時： 3月8日（土） 午前10時

場所： 島原城観光復興記念館

（第32回島原半島文化賞授賞式及び第33回康平忌）

3. 選考理由及び関係資料

別紙参照

4. その他

昭和58年から平成25年までに個人41件、団体20件が受賞



有明海にひらく湧水あふれる
火山と歴史の田園都市 島原

担当：島原半島文化賞運営委員会事務局
（島原市教育委員会社会教育課）
土橋啓介
電話：0957-63-1111（内線 651）
E-mail：shakyo@city.shimabara.lg.jp

平成26年 島原半島文化賞受賞者

(敬称略)

【選考理由要旨】

個人の部

○松尾 司郎（まつお しょう：郷土史研究家）

雲仙市瑞穂町在住 （75歳）

瑞穂史談会会長

平成11年に定年退職するまで地方公務員として勤務の後、郷土史の研究に邁進され、特に江戸時代の島原藩の記録である「島原藩日記」の解読に取り組み、個人でその解読成果を逐次印刷される。

その温厚な人柄と郷土史に対する造詣の深さにより、旧藩主松平家に伝わった貴重な書物を管理する「松平文庫」への勤務を島原市教育委員会から依頼され、平成18年4月から23年3月まで管理員として勤められた。

その間、松尾氏の解読原稿をもとに島原市教育委員会から「島原藩日記」が現在まで順次5巻出版されており、近世の島原半島の歴史研究に多大な貢献をされている。

また、島原図書館の「郷土史を学ぼう会」講師を度々務められるとともに、島原新聞にも藩日記の内容を紹介されており、一般にも分かり易く郷土の歴史を紹介されている。

現在は、瑞穂史談会会長として、地域の歴史・文化の調査研究の中心となって活動されている。

このように、長年にわたる郷土史の研究、「島原藩日記」の解読・出版により島原半島の文化の振興に大きく寄与されている。



松尾司郎氏

平成26年 島原半島文化賞受賞者

(敬称略)

【選考理由要旨】

個人の部

○山口 和江 (やまぐち かずえ：音楽家)

島原市在住 (74歳)

音楽の教員として県内の中学校に勤務し生徒を指導されたのち、退職後は、島原半島の一般や子どもたちの音楽団体の指導をされ、コール島原については、昭和57年から現在に至るまで32年間に渡り指導をされている。

平成11年(1999年)には全日本おかあさんコーラス全国大会において、コール島原をおかあさんコーラス大会賞受賞に導かれた。

他にも、島原市内の有明少年少女合唱団、徳法寺合唱団や、南島原市加津佐町の蓮正寺蓮の実合唱団など半島内の各音楽団体を指導されている。

さらに、音楽愛好者の発表の場として、平成6年から毎春「スプリングコンサート」を開催し、今年で20年を迎える。

また、声楽家としても、イタリアでの「ジュリエッタ・シミオナート女史主催コンサート」や、韓国での「日韓歌曲の夕べ」など国内外でのコンサート等に多数出演されるなど、幅広く活躍されている。

このように、長年にわたる地域への音楽指導や発表活動など、音楽をとおして島原半島の文化の振興に大きく寄与されている。



山口和江氏

島原半島文化賞制定要綱

宮崎康平氏の生前における活躍と、その功績を後世に永く顕彰し、あわせて島原半島における文化の向上に寄与するため、宮崎康平碑建設実行委員会及び有志者から寄せられた浄財を基金として「島原半島文化賞」を制定する。

1 交付対象

毎年2人以内。(個人または団体)

2 審査基準

文化部門において、その発展のため著しい活動と貢献のあった人または団体。

3 候補者推薦受付(市推薦及び審査会委員推薦)

平成26年1月27日から平成26年2月14日まで

4 審 査

審査会により審査、決定する。(2月26日開催予定)

5 贈 呈 式

「宮崎康平忌」式場において行う。授賞は昭和58年からとする。(3月8日開催予定)

6 推薦書様式

別紙のとおり

7 この運用については、別に定める運営委員会が当たる。

島原半島文化賞運営委員会事務局

〒859-1492 島原市有明町大三東戊1327

島原市教育委員会社会教育課